

八雲編

カウコンフォートに通じた微生物活用 八雲町 片山伸雄牧場

噴火湾を眼下に見下ろす道南・八雲町にある片山牧場は、飼養頭数八〇頭(経産牛約五〇頭)で、トウモロコシ、放牧地を含めた自給飼料畑は三四ha、年間生産乳量は約四〇〇tの專業酪農経営をされておられます。

経営者・伸雄さんは五年ほど前に事業資金などを活用して牛舎改造に取り組み、カウコンフォート(牛の居心地)の改善に努めてこられました。家族みんなが、牛にとつての快適さを日々追求し続けられておられます。そんな片山さんが、牛舎内の悪臭低減や堆肥の発酵促進のために、何らかの改善策を検討するのは極自然な成り行きだったと言えます。

微生物飼料「スノーエックス」を使用するようになったのは約五年前。ちょうど牛舎内外の改善に努めてきたのと同時期のことです。初めは代理店の伊藤さんからの紹介で、自給飼料畑に良質の堆肥を還元する事を勧められ、搾乳牛に給与を開始しました。微生物でコ

ントロールされるようになったふ

んは、悪臭がほとんど無く牛舎内の悪臭もみるみる低減し、今ではほとんど感じられない状況となり、また、冬期間に溜まったふんを春に圃場に堆積すると、頻繁に切り返さなくても、秋には中の方まで黒くなった良質の堆肥に仕上がっていました。片山さんは「スノーエックス」の効果によって、ふんの分解が早まったのではと感じています。

その堆肥を採草地に散布してみると、草丈が低く色も薄かったのか、初めは肥料成分が少ないのか

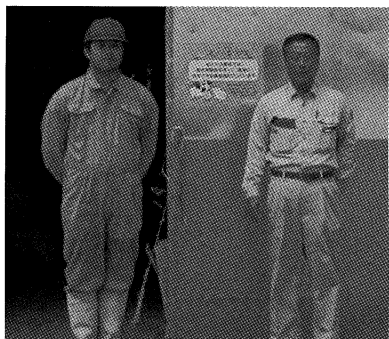


写真 片山伸雄さんと伊藤氏(右)

と心配しましたが、実際に収穫してみると収量はむしろ多く、自分でかじってみても甘く感じられるような、牛にとつて嗜好性の極めて高い牧草に変わっていったのです。収量増と嗜好性アップの要因は、即効性の窒素を初めとする多量要素主体ではなく、微量元素をバランス良く含み、腐植と菌叢の富む堆肥によって良好となった土壌で生育したために、密度の高い、そして作物として健康な牧草になったのではと考えられます。

片山牧場では夏場は放牧管理なので、一般に比べれば尿の溜まる量は決して多くはありません。しかし、堆肥を有効利用して、自給飼料の生産ベースが改善されていたことで、尿も液肥として活用できないものかと考えました。そこで、散布専用の発酵促進剤「PAB-50」を尿溜に投入してみると効果は思ったよりも早く発現し、匂いが激減。アンモニアや硫化水素などの悪臭から開放されました。それだけではなく、これまでドロドロとしたスラリー状のため、タンクへの吸引や散布作業が手間取っていたのが、スカム(液体表面に浮遊する固形成分)が減少してサラサラとした性状になり、ハン

ドリングや作業性がぐっと改善されました。

道南とは言え、ここ八雲町は年間降雪量が八〇cmと比較的多めで、他の道内の地域と同様、冬季間の尿散布はできません。通常は春の雪解け後と秋の降雪前に、畑に散布して「処理」するしかありませんでした。しかし、悪臭がほとんど無く、作業性が向上した尿であれば、一、二番牧草収穫後も「活用」できます。それにより肥料の低減と、良質な粗飼料を確保する事が大いに期待できるのです。片山さんは今年、その尿を初めて一番草収穫後に採草地に散布してみました。今から二番草の出来具合が楽しみです。

このように日々、堆肥を見、土を見、草を見、そして大切な牛を見守りつづけている片山さんが、今後それぞれの努力が形となり、益々発展していくよう心から応援したいと思っています。

(八雲営業所 磯部)

雪印種苗株式会社

編集発行人 菊地 庸

本社 062-8650 札幌市豊平区美園二条一丁目

TEL 011-831-1161

FAX 011-821-2582